

一般参加可
参加費無料!

所属団体、学校種などに関係なくどなたでも自由に参加できます

新教育課程 - 実践授業のあり方を問う

平成29年3月31日に幼稚園教育要領、小学校及び中学校の学習指導要領が改訂告示され、来年度からの移行措置期間を経て、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から全面実施となります。

今回のフォーラムでは、新学習指導要領の考え方や方向性を基盤とした授業のあり方を、お二人の先生から授業の実践を紹介いただき、新教育課程における図画工作科、美術科の授業実践のあり方について参加者の皆さんと具体的な意見交換を行います。

- 日時 平成30年1月21日(日)
13:30~16:30
- 場所 東洋大学白山キャンパス
6号館2階6204教室
- 司会 三澤一実(みさわかずみ)
日本美術教育連合運営委員
武蔵野美術大学教授
- 提案者 大櫃重剛(おおびつしげたか)
東京学芸大学附属世田谷小学校教諭
飯田成子(いいだしげこ)
埼玉県朝霞市立朝霞第五中学校教諭



- 都営地下鉄三田線「白山」駅
A1 出口から「西門」徒歩5分
A3 出口から「正門・南門」徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「千石」駅
A1 出口から「正門・西門」徒歩7分
■東京メトロ南北線「本駒込」駅
1番出口から「正門」徒歩5分



■提案者 大櫃 重剛 (おおびつ しげたか)

東京学芸大学附属世田谷小学校教諭
図画工作教科書など執筆多数。

今回の改訂では、領域・題材を視軸に置いてきた従来の教科観を、資質・能力の柱で整理し直すという、発想の転換が我々に求められています。しかし、決してこれまで試行錯誤を重ねて子どもたちと築き上げてきた実践の成果が台無しになるわけではありません。むしろ、今までも大事にしてきた「この授業で子どもたちに培いたい力」をもとに、今回の柱をきっかけにして目の前の子どもたちの実態を見つめながら、系統的な視野でカリキュラムを考える機会になると考えています。



小学校1年 題材名「あيسくりいむ たべたいな」
アイスやさんになって、クレヨンの色ともようで「自分だけの
新商品アイス〇〇味をつくらう!」となげかけ、表現と鑑賞を
行き来している活動の一場面。



題材名 「リラックス椅子のデザインを考えよう」
埼玉近代美術館所蔵のグッドデザインの椅子に座って鑑賞した後にリラックスできるオリジナルの椅子をデザインしデザインにあった素材でミニチュア椅子を作る。

■提案者 飯田 成子 (いいだ しげこ)

朝霞市立朝霞第五中学校教諭
国立教育政策研究所事業学習指導実践協力校委嘱 H25～H27・H29

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力の3つの柱が教科間で統一されたことにより、「美術科での学びは何なのか」ということをより明確化していかなければならないと感じます。

特に現行A表現(1)と(2)がA表現(1)ア、イにまとめられ、「目的や機能などを考えた発想や構造」においても「主題を生み出す」ことが位置付けられたことは、他者への表現でも、主題「自分」が大切であることが教科の必要性、存在感を増していると思うのです。



■司会 三澤 一実 (みさわ かずみ)

武蔵野美術大学教職課程研究室教授
平成20年版小学校学習指導要領解説図画工作編作成協力者

今回の改訂では、「各教科の特質に応じた見方・考え方のイメージ」が示されました。このイメージは教科での学びを明確に方向づけると共に、一方ではこの学びを連携したり、社会とつなげていったりする「カリキュラムマネジメント」や「開かれた教育課程」もキーワードです。何を学ぶか、どのように学ぶかという学び視点が今まで以上に重視されますが、これらは美術教育において美術のダイナミズムを生み出すチャンスとなるのではないのでしょうか。



旅するムサビ 長野県茅野市立米沢小学校
学生が作品を携え学校を訪問し対話型鑑賞を行う。2008年に始まったこの活動は10年で約300回行われ、訪問先は27都道府県、海外2カ所に及ぶ。